

# 安全データシート

## 1. 化学品及び会社情報



化学品の名称(製品名):

クリアミストプラス

会社名:

株式会社ハセガワ

住所:

〒142-0063 東京都品川区荏原1丁目24-36

担当部署:

業務部 研究検査グループ

緊急連絡先:

TEL: 03-3781-3191 FAX: 03-3781-3968

作成日: 2014年 7月 1日

改訂日: 2019年 12月 9日 整理番号: 8379

奨励用途及び使用上の制限:

食品の除菌と防腐

## 2. 危険有害性の要約

### GHS分類

物理化学的危険性	: 爆発物 : 可燃性/引火性ガス (化学的に不安定なガスを含む) : エアゾール : 支燃性/酸化性ガス : 高圧ガス : <b>引火性液体</b> : 可燃性固体 : 自己反応性化学品 : 自然発火性液体 : 自然発火性固体 : 自己発熱性化学品 : 水反応可燃性化学品 : 酸化性液体 : 酸化性固体 : 有機過酸化物 : 金属腐食性物質	分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 <b>区分2</b> 分類対象外 分類対象外 区分外 分類対象外 区分外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類対象外 分類できない
健康に対する有害性	: 急性毒性(経口) : 急性毒性(経皮) : 急性毒性(吸入:ガス) : 急性毒性(吸入:蒸気) : 急性毒性(吸入:粉じん) : 急性毒性(吸入:ミスト) : 皮膚腐食性/刺激性 : <b>眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性</b> : 呼吸器感作性 : 皮膚感作性 : 生殖細胞変異原性 : 発がん性 : <b>生殖毒性</b> 授乳に対する又は授乳を介した影響 : <b>特定標的臓器毒性(単回曝露)</b> : <b>特定標的臓器毒性(反復曝露)</b>  : 吸引性呼吸器有害性	区分外 区分外 分類対象外 区分外 分類対象外 分類できない 区分外 <b>区分2B</b> 分類できない 分類できない 区分外 分類できない <b>区分1A</b> 分類できない <b>区分3(麻酔作用、気道刺激性)</b> <b>区分1(肝臓)、</b> <b>区分2(中枢神経系)</b> 分類できない
環境に対する有害性	: 水生環境有害性(急性) : 水生環境有害性(慢性) : オゾン層への有害性	区分外 区分外 分類できない

## GHSラベル要素

絵表示



注意喚起語

: 危険

危険有害性情報

: 引火性の高い液体及び蒸気  
眼刺激  
生殖能又は胎児への悪影響の恐れ  
眠気又はめまいの恐れ  
呼吸器への刺激の恐れ  
長期又は反復曝露による肝臓の障害  
長期又は反復曝露による中枢神経系の障害の恐れ

注意書き

### 【安全対策】

: 使用前に取扱説明書入手すること。  
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
熱／火花／裸火／高温のもののような着火源から遠ざけることー禁煙  
防爆型の電気機器／換気装置／照明機器等を使用すること。  
火花を発生させない工具を使用すること。  
静電気放電に対する予防措置を講ずること。  
容器を接地すること／アースをとること。  
保護手袋／保護衣／保護眼鏡／保護面を着用すること。  
屋外又は換気の良い場所で使用すること。  
ミスト／蒸気／スプレーを吸入しないこと。  
取扱い後は手を良く洗うこと。  
容器を密閉しておくこと。  
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。

### 【救急処置】

火災の場合  
皮膚(又は)髪に付着した場合

: 適切な消火方法をとること。  
直ちに汚染された衣類を全て脱ぐこと  
皮膚を流水／シャワーで洗うこと

飲み込んだ場合

: 気分が悪い時には医師に連絡すること。  
口をすすぐこと。

眼に入った場合

: 水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを使用していて容易に  
外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。

眼の刺激が続く場合  
曝露又はその懸念のある場合

: 医師の診断／手当を受けること。  
医師の診断／手当を受けること。

吸入した場合

: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。

気分が悪い場合

: 医師に連絡すること。

### 【保管】

: 換気の良い場所で保管すること。涼しいところに置くこと。  
施錠して保管すること。

### 【廃棄】

: 内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に  
業務委託すること。

## 3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別

: 混合物

化学名

: エタノール(Ethanol)

添加物

水(water)

一般名

: エチルアルコール(Ethyl alcohol)

別名

: エタン-1-オール(Ethane-1-ol)

略号(本SDS内)

: EtOH

化学特性(化学式)

: C<sub>2</sub>H<sub>5</sub>OH

H<sub>2</sub>O

構造式	CH <sub>3</sub> —CH <sub>2</sub> —OH	H—O—H
CAS.No.	: 64-17-5	7732-18-5
EINECS.No.	: 200-578-6	231-791-2
濃度及び濃度範囲	: 56.4～57.5%	1.77～1.81% 40.9～41.7%
官報公示整理番号(化審法)	: (2)-202	
官報公示整理番号(安衛法)	: (2)-202	
化学物質管理促進法	: 非該当	
労働安全衛生法	: 通知対象物(61)	
<b>4. 応急措置</b>		
吸入した場合	: 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。 気分が悪い時は医師を呼ぶこと。	
皮膚に付着した場合	: 直ちに、汚染された衣類を全て脱ぐこと／取り除くこと。 皮膚を流水／シャワーで洗うこと。 脱いだ衣類を再使用する前に洗濯し汚染除去すること。	
眼に入った場合	: 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。	
飲み込んだ場合	: 口をすすぐこと。 気分が悪い時には医師に連絡すること。	
予想される急性症状 及び遅発性症状	: 吸入 咳、頭痛、疲労感、嗜眠。 皮膚 皮膚の乾燥。 眼 発赤、痛み、灼熱感。 経口 灼熱感、頭痛、錯乱、めまい、意識喪失。	
最も重要な兆候及び症状	: 中枢神経系に影響を与えることがある。刺激、頭痛、疲労感、集中力欠如を生じることがある。妊娠中にエタノールを摂取すると、胎児に有害影響が及ぶことがある。長期にわたる摂取は肝硬変を引き起こすことがある。	
応急措置をする者の保護	: 有機溶剤用の保護マスクが有ればそれを着用する。	
医師に対する特別注意事項	: データなし。	
<b>5. 火災時の措置</b>		
消火剤	: 小火災 粉末消火剤、耐アルコール性泡消火剤、二酸化炭素、ハロゲン化物消火剤 大火災 散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤	
使ってはならない消火剤	: 棒状注水	
火災時特有の危険有害性	: 極めて燃えやすく、熱、火花、火炎で容易に発火する。 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性ガスを発生させる恐れがある。 加熱により容器が爆発する恐れがある。	
特有の消火方法	: 散水によって逆に火災が広がる恐れがある場合には、上記に示す消火剤のうち、散水以外の適切な消火剤を利用すること。 引火点が極めて低い: 散水以外の消火剤で消火の効果がない大きな火災の場合には散水すること。 消火作業は風上から行うこと。 危険でなければ火災区域から容器を移動すること。 移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却すること。 消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却すること。 すみやかに必要な箇所に通報し、応援を求めること。 火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止すること。	
消火を行う者の保護	: 消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。	

## 6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項 : 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。  
保護具及び緊急時措置 : 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。  
関係者以外の立入りを禁止する。  
作業者は適切な保護具(「8. 曝露防止及び保護措置」の項を参照)を着用し、眼、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。  
漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性の高い、不浸透性の保護衣を着用すること。  
屋内の場合処理が終わるまで十分に換気を行うこと。  
風上に留まる。低地から離れること。
- 環境に対する注意事項 : 河川等に排出され、環境へ影響を起こさないように注意すること。
- 回収・中和  
(封じ込め及び浄化の方法・機材) : 危険でなければ、漏れを止めること。  
少量の場合 : 乾燥土、砂や不燃材料で吸収し、あるいは覆って密閉できる空容器に回収する。後で廃棄処理すること。  
吸収したものを集めるとき、清潔な帯電防止工具を用いる。  
大量の場合 : 土砂など(の不燃物)で囲って流出を防止し、安全な場所に導いてスコップ又は吸引機などで空容器に回収すること。  
散水は、蒸気濃度を低下させる。しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ない恐れがある。  
漏出物を取扱うとき用いる全ての設備は接地すること。
- 二次災害の防止策 : 本製品の漏れを防ぐか極力少なくし流出拡大防止を図る。  
周囲に火気があればすぐに消し、エンジン・モーターなども止め、全ての発火源を速やかに取り除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。  
容器を安全な場所に移し、内容物を安全な容器に移しかえること。  
粉末消火器などを持ってきて火災発生時に備えること。  
排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

### 取扱い

- 技術的対策 : 「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具着用のこと。
- 局所排気・全体換気 : 「8. 曝露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行うこと。
- 安全取扱い注意事項 : 全ての安全注意を読み理解するまで取扱わないこと。  
高温物、スパーク、火炎を避け、強酸化剤との接触を避けること。  
極めて揮発しやすいので蒸気の発生をできるだけ抑え、漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させないこと。  
夏場等ドラム開栓は、内部に圧力がかかるので徐々に開栓すること。  
移液の際には、容器、配管等から確実にアースをとり、静電気対策を行い、作業衣、作業靴は導電性のものを用いること。非導性の材質を用いたホース、パイプ等を使用しないこと。  
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしないこと。  
接触、吸入又は飲み込まないこと。  
眼との接触を避けること。  
屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。  
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。  
取扱い後はよく手を洗うこと。

接触回避 : 「10. 安定性及び反応性」を参照。

### 保管

- 技術的対策 : 保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、梁を不燃材料で作ること。  
保管場所は屋根を不燃材料で作るとともに、金属板その他の軽量な不燃材料で葺き、かつ天井を設けないこと。

保管条件	<p>保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所の床は、危険物が浸透しない構造とするとともに、適切な傾斜をつけ、かつ、適切な溜樹を設けること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設けること。</p> <p>: 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。ー禁煙。 容器を密閉して遮光し、気密容器に密栓して換気の良い冷暗所に貯蔵すること。 酸化剤から離して保管すること。 危険物関係法令及び有機溶剤中毒予防規則の定めるところに従うこと。 施錠して貯蔵すること。</p>
混触危険物質	: 「10. 安定性及び反応性」を参照。
容器包装材料	: 消防法及び国連輸送法規で規定されている容器を使用する。

<b>8. 曝露防止及び保護措置</b>	
管理濃度	EtOH : 設定されていない。 添加物 : 設定されていない。
許容濃度	EtOH : 日本産業衛生学会(2012年版) 設定されていない。 : ACGIH (2012年版) TLV-TWA 1,000 ppm 添加物 : 日本産業衛生学会(2012年版) 設定されていない。 : ACGIH (2012年版) 設定されていない。
設備対策	: 取扱いについては密閉された装置、機器又は、局所排気装置を使用する。 取扱い場所の近くに安全シャワー、手洗い、洗眼設備を設け、その位置を明瞭に表示すること。 火気厳禁、静電気に注意し、作業靴等は導電性のものを用い、静電気放電に対する予防措置を講ずること。
保護具	
呼吸器の保護具	: 状況に応じ、マスク、保護眼鏡、保護手袋等を使用すること。
手の保護具	: 不浸透性保護手袋
目の保護具	: 側板付保護眼鏡(必要によりゴーグル型又は全面保護眼鏡)。
皮膚及び身体の保護具	: 帯電防止性能を有する、長袖の保護衣及び安全靴。
衛生対策	: 取扱い後はよく手を洗うこと。 この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。

<b>9. 物理的及び化学的性質</b>		
外観	クリアミストプラス 無色透明な液体	EtOH 無色の透明な液体
臭い	異臭なし (対標準品)	特徴的な臭気
pH	約5-9	データなし
融点	データなし	-114.5 °C
沸点	データなし	78.32 °C
引火点	22.5°C (タグ密閉法)	13 °C (密閉式)
発火点	485°C	422.78 °C
爆発範囲(空气中)	データなし	3.3 ~ 19 vol.%
蒸気圧	データなし	59.3 mmHg (@25°C)
蒸気密度(空気=1)	データなし	1.59
蒸発速度	データなし	データなし
比重(密度)	0.9 (@20/20°C) (代表値)	0.7893 (20°C/4°C)
溶解度(水)	水と混和	水に混和。
溶解性(有機溶剤)	殆どの有機溶剤と混和。	殆どの有機溶剤と混和。
オクタノール／水分配係数	データなし	log Pow = -0.31 (実測値)
粘度 (mPa·s)	データなし	1.203 (@20°C)
分解温度	データなし	データなし

<b>10. 安定性及び反応性</b>	
安定性	: 通常の取り扱いにおいては安定。 熱、光に不安定である。 極めて揮発性が強く、室温で蒸発し、空気中に広範囲に拡散して爆発性混合ガスをつくる。
危険有害反応可能性	: 引火性が高い。 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニアと徐々に反応し、火災や爆発の危険をもたらす。硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤と激しく反応し、火災や爆発の危険をもたらす。 室温で蒸発し、空気中に広範囲に拡散して爆発性混合ガスをつくる。 強酸化剤と反応し、火災や爆発の危険性をもたらす。
避けるべき条件	: 高温、火災やスパーク等の着火源となるもの。 非電導性で流動、濾過等の際に帯電し、放電火花によって引火爆発を起こす恐れがある。高温、日光。
混触危険物質	: 次亜塩素酸カルシウム、酸化銀、アンモニア、硝酸、硝酸銀、硝酸第二水銀、過塩素酸マグネシウムなどの酸化剤。
危険有害な分解生成物	: 一酸化炭素、二酸化炭素、ホルムアルデヒドなどの有害ガスが発生する。
<b>11. 有害性情報</b>	
急性毒性(経口)	(EtOH) : LD <sub>50</sub> (ラット) 6,200~15,000 mg/kg bw、 13,700 mg/kg、 17,800 mg/kg、 11,500 mg/kg、 9,100 mg/kg、 15,010 mg/kg bw、 7,000~11,000 mg/kg bw、 7,800 mg/kg bw、 11,500 mg/kg bw、 7,060 mg/kg bw、 11,170~16,710 mg/kg bw、 8,300 mg/kg bw、 9.8~11.6 ml/kg bw (7,938~9,396 mg/kg)、 14.6 ml/kg bw (1,1826 mg/kg) より 区分外
製品区分判定	(添加剤) : データなし。より 分類できない
製品区分	: 分類できない成分が10%未満であり、その他の成分が区分外であることから、区分外とした。
製品区分	: <u>区分外</u>
急性毒性(経皮)	(EtOH) : LD <sub>50</sub> (ウサギ) 20,000 mg/kg bw より 区分外
製品区分判定	(添加剤) : データなし。より 分類できない
製品区分	: 分類できない成分が10%未満であり、その他の成分が区分外であることから、区分外とした。
製品区分	: <u>区分外</u>
急性毒性(ガス吸入)	: GHS分類上の液体である。より、 分類対象外
製品区分	: <u>分類対象外</u>
急性毒性(蒸気吸入)	(EtOH) : LD <sub>50</sub> (ラット) 3,837 ppmV、 区分4相当 63,000 ppmV(4h)、20,661 ppmV(4h) 区分外相当 66,181 ppmV(4h)、22,627 ppmV(4h) 区分外相当 被験物質濃度は飽和蒸気圧濃度 78,026 ppmV(147.1 mg/L)の90% [70,223 ppmV(132.4 mg/L)]より低値であることから、ガスの基準値 (ppmV)を使用。より 区分外
製品区分判定	(添加剤) : データなし。より 分類できない
製品区分	: 分類できない成分が10%未満であり、その他の成分が区分外であることから、区分外とした。
製品区分	: <u>区分外</u>
急性毒性(粉じん吸入)	: GHS分類上の液体である。より、 分類対象外
製品区分	: <u>分類対象外</u>

急性毒性(ミスト吸入) 製品区分	: データなし。 : <u>分類できない</u>	より、 分類できない
皮膚腐食性/刺激性(EtOH)	: ウサギに4時間曝露した試験(OECD TG 404)において、適用1及び24時間後の紅斑の平均スコアが1.0、その他の時点では紅斑及び浮腫の平均スコアは全て0.0であり、刺激性なし(not irritating)の評価に基づいた。	より、 区分外
(添加剤)	: データなし。	より 分類できない
製品区分判定	: 分類できない成分が3%未満であり、その他の成分が区分外であることから、区分外とした。	
製品区分	: <u>区分外</u>	
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 (EtOH)	: ウサギを用いたDraize試験(OECD TG 405)において中等度の刺激性(moderate irritating)と評価され、適用後1~3日目に角膜混濁、虹彩炎、結膜発赤、結膜浮腫が認められ、MMAS (Modified Maximum Average Score: AOIに相当) が24.0、かつ7日以内に症状がほぼ回復している。	より 区分2B
(添加剤)	: データなし。	より 分類できない
製品区分判定	: 分類できない成分がカットオフ値未満であり、区分2B成分が主成分であることから区分2Bとした。	
製品区分	: <u>区分2B(眼刺激)</u>	
呼吸器感作性 (EtOH)	: データ不足で分類できない。 尚、アルコールによる気管支喘息症状の誘発は血中アルデヒド濃度の増加と関係があると考えられており、一方、軽度の喘息患者 2人がEtOHの吸入誘発試験で重度の気管支収縮を起こしたことが報告されているが、その反応がアレルギー由来であることを示すものではないとも述べられている。	より、 分類できない
(添加剤)	: データなし。	より 分類できない
製品区分判定	: 全て分類できない。	
製品区分	: <u>分類できない</u>	
皮膚感作性 (EtOH)	: ヒトでは、アルコールに対するアレルギー反応による接触皮膚炎等の症例報告があるとの記述があるが、「ヒトでは他の一級又は二級アルコールとの交叉反応性が見られる場合があること、動物試験で有意の皮膚感作性は見られないことにより、EtOHに皮膚感作性ありとする十分なデータがない」の記述に基づきデータ不足である。	より、 分類できない
(添加剤)	: データなし。	より 分類できない
製品区分判定	: 全て分類できない。	
製品区分	: <u>分類できない</u>	
生殖細胞変異原性(変異原性) (EtOH)	: マウス及びラットを用いた経口投与(マウスの場合さらに腹腔内投与)による優性致死試験(生殖細胞 <i>in vivo</i> 経世代変異原性試験)において陽性結果があるものの、極めて高い用量での知見であり、再現性も認められておらず、標準的 <i>in vivo</i> 及び <i>in vitro</i> 変異原性試験においても陰性であったことから、証拠の重みづけに基づき区分外とした。 尚、 <i>in vitro</i> 変異原性試験として、Ames試験は全て陰性であり、染色体異常試験でもCHO細胞を用いた試験1件の陽性結果を除き他は全て陰性であった。	より 区分外
(添加剤)	: データなし。	より 分類できない
製品区分判定	: 分類できない成分がカットオフ値未満であり、主成分が区分外であることから、区分外とした。	
製品区分	: <u>区分外</u>	
発がん性 (EtOH)	: ACGIHはEtOHをA3に分類しており区分2相当であるが、この評価に用いたデータは、ラット雌雄を用いた飲水による生涯試験であり、ヒトでの飲酒を想定して高用量(10%濃度)で実施されている。より低用量(1%又は3%	

	濃度)のラット雌雄を用いた液体飼料による2年間試験においては明確な発がん性は示されていない。更に、ヒト職業曝露における疫学調査ではなく動物実験のデータに基づいており、ヒトに対しては不明であるとの但し書きがある。 また、IARCはアルコール性飲料を習慣的に摂取するヒトの多数の疫学調査に基づいてアルコール性飲料をグループ1に分類しており、2007年の再評価においてもアルコール性飲料及びアルコール性飲料中のEtOHをグループ1に分類しているが、このデータはヒトにおける嗜好的習慣的摂取のデータに基づいている。更に、EUではEtOHについての発がん性分類はされていない。
(添加剤)	: データなし。より 分類できない
製品区分判定	: 全て分類できない。
製品区分	: <u>分類できない</u>
生殖毒性 (EtOH)	: EtOHに関する疫学情報は多く、これまでの前向き研究あるいはケース・コントロール研究の結果から、一定量以上の飲酒が流産の発生あるいは発生のリスクを有意に増加させることが報告されている。また、妊婦の習慣的な飲酒が胎児に発育抑制、小頭症、特徴的顔貌、精神障害などを起こす胎児性アルコール症候群が複数の報告で認められる。その他に出生前のEtOH摂取による異常として、口蓋裂、手掌線の異常、心房心室中隔欠損、耳管欠損などが見られ、妊婦がEtOHを大量摂取した場合に催奇形性と胎児毒性が強く示唆されるとの記述もある。 尚、動物試験では、ラット及びマウスに経口投与による一世代試験では悪影響がなく、マウスの二世世代試験で同腹生存仔数の減少が見られ、また、ラットの妊娠期間中の経口投与による一部の試験で多指症、多合指症などの奇形が報告されている。 以上の疫学報告及び疫学研究の結果は、ヒトに対するエタノールの生殖毒性を示す確かな証拠と考えられる。より、 区分1A
(添加剤)	: データなし。より 分類できない
製品区分判定	: 区分1A成分がカットオフ値以上あることから、区分1Aとした。
製品区分	: <u>区分1A(生殖能又は胎児への悪影響の恐れ)</u>
特定標的臓器毒性(単回曝露) (EtOH)	: ヒトに吸入曝露した試験で、昏迷、傾眠、軽度の麻痺が観察されている。また、EtOH摂取による急性の毒性影響は中枢神経系の障害であると記載され、重度の中毒では筋失調、霧視、複視、昏迷、低体温、嘔気、嘔吐、痙攣など、大量摂取した場合には昏睡、反射低下、呼吸抑制、低血圧が見られ、さらに呼吸又は循環器不全により、あるいは咽頭反射が欠如した場合には胃内容物吸引の結果として死に至ると記述されている。上記のヒトでの昏迷、傾眠などの症状に加え、ラット、マウス及びモルモットに吸入曝露した試験における麻酔、傾眠、運動失調などの症状の記載に基づき <u>区分3(麻酔作用)</u> とした。 一方、ヒトに試験物質蒸気の吸入曝露は低濃度でも眼と上気道に刺激性があるとの記述、ヒトに吸入曝露した試験で、咳及び眼と鼻腔に疼きを感じたとの報告、さらに非耐性の被験者の吸入曝露試験では鼻刺激感が報告されていることから <u>区分3(気道刺激性)</u> とした。
(添加剤)	: データなし。より 分類できない
製品区分判定	: 主成分の区分を採用し、区分3(麻酔作用、気道刺激性)とした。
製品区分	: <u>区分3(麻酔作用;眠気又はめまいの恐れ)</u> : <u>区分3(軌道刺激性;呼吸器への刺激の恐れ)</u>
特定標的臓器毒性(反復曝露) (EtOH)	: ヒトでアルコールの長期大量摂取はほとんど全ての器官に悪影響を及ぼすが、最も強い影響を与える標的器官は肝臓であり、障害は脂肪変性に始まり、壊死と線維化の段階を経て肝硬変に進行するとの記載に基づき <u>区分1(肝臓)</u> とした。また、アルコール摂取により重度の身体的依存症となった患者は、振戦、痙攣、譫妄の禁断症状に加え、しばしば嘔気、脱力、不安、発汗を伴い、アルコールを得るための意図的行動、及び反射亢進が顕著と

	<p>なると述べられていることから、<u>区分2(中枢神経系)</u>とした。  尚、動物試験では有害影響の発現はさほど顕著ではなく、ラットあるいはマウスの90日間反復経口曝露試験の場合、ガイダンス値範囲をかなり上回る高用量で肝臓への影響として脂肪変性が報告されている。</p>
(添加剤)	: データなし。より 分類できない
製品区分判定	: 区分1成分が主成分であることから、上記EtOHの区分を採用。
製品区分	: <u>区分1(長期又は反復曝露による肝臓の障害)</u> : <u>区分2(長期又は反復曝露による中枢神経系の障害の恐れ)</u>
吸引性呼吸器有害性	: データなし。より、 分類できない
製品区分	: <u>分類できない</u>
<b>12. 環境影響毒性</b>	
水生環境有害性(急性)	
(EtOH)	: 甲殻類(ネコゼミジンコ) LC <sub>50</sub> (48H)= 5,012 mg/L 魚類(ファットヘッドミノー) LC <sub>50</sub> (96H) >100 mg/L 藻類(クロレラ) EC <sub>50</sub> (96H)= 1,000 mg/L より、 区分外
(添加剤)	: データなし。より 分類できない
製品区分判定	: 分類できない成分が微量であり、その他の成分が区分外であることから、 区分外とした。
製品区分	: <u>区分外</u>
水生環境有害性(慢性)	
(EtOH)	: 難水溶性でなく(水溶解度=1.00×10 <sup>6</sup> mg/L)、急性毒性が低い。 より、 区分外
(添加剤)	: データなし。より 分類できない
製品区分判定	: 分類できない成分が微量であり、その他の成分が区分外であることから、 区分外とした。
製品区分	: <u>区分外</u>
オゾン層への有害性	: モントリオール議定書の附属書に列記されていない。 より 分類できない
製品区分	: <u>分類できない</u>
<b>13. 廃棄上の注意</b>	
残余廃棄物	: 廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して処理すること。 廃棄物の処理を委託する場合、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託すること。
汚染容器・包装	: 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去した後に処分すること。 本品を含む排水は活性汚泥等の処理により清浄にした後排出すること。
<b>14. 輸送上の注意</b>	
EtOHに係る規制を記載	
国際規制	
国連番号	: 1170
国連分類	: 3.2 (中引火点引火性液体)
容器等級	: II
Proper Shipping Name	: ETHANOL
Marine Pollutant	: Not applicable
国内規制	
陸上輸送	: 消防法の基準に従い積載・運搬を行うこと。

海上輸送	: 船舶安全法の規定に従うこと。
特別の安全対策	: 車両によって運搬する場合は、荷送り人は運送人にイエローカード(運送注意書き)を交付する事が望ましい。 運搬に際しては容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないように積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。 危険物又は危険物を収納した容器が著しく摩擦又は動揺を起こさないように運搬すること。 危険物の運搬中、危険物が著しく漏れる等災害が発生する恐れがある場合には、災害を防止するための応急措置を講ずる。 直ちに、もよりの消防機関その他の関係機関に通報すること。
<b>15. 適応法令</b>	EtOHに係る規制を記載
化審法	: 法第2条第7項、一般化学物質
労働安全衛生法	: 名称等を通知すべき有害物 (法第57条の2、施行令 第18条の2 別表第9)(政令番号 第61号) 危険物・引火性の物(施行令 別表第1第4号)
食品衛生法	食品添加物
大気汚染防止法	: 揮発性有機化合物(法第2条第4項)(環境省から都道府県への通達)
海洋汚染防止法	: 有害液体物質(Z類物質)
特定有害廃棄物輸出入規制法 (バーゼル法)	: 廃棄物の有害成分・法第2条第1項第1号イに規定するもの(平10三省告示1号)【39イ 有機溶剤(ハロゲン化物以外)】 廃棄物、1重量%以上
船舶安全法	: 引火性液体類(危規則第3条 危険物告示 別表第1) (アルコールの含有率が24容量%以下の水溶液を除く)
航空法	: 引火性液体(施行規則第194条 危険物告示 別表第1)
港則法	: その他の危険物・引火性液体類(法第21条 第2項、規則 第12条、危険物の種類を定める告示別表)【2ロ エタノール又はその溶液】(アルコールの含有率が24容量%以下の水溶液を除く)
道路法	: 車両の通行の制限(施行令第19条の13、(独)日本高速道路保有・債務返済機構公示 第12号・別表第2)【5 アルコール類】
外国為替及び外国貿易法	: 輸入貿易管理令 第4条 第1項 第2号輸入承認品目「2の2号承認」 【有機溶剤(ハロゲン化物以外)】 1重量%以上(廃棄物) 輸出貿易管理令 別表第2(輸出の承認) 【35の2項(1) 別表第3の39のイ 有機溶剤(ハロゲン化物以外)】 1重量%以上(廃棄物)
消防法	: 本製品はエタノールを含有するが60重量%未満のため、平成元年消防法危14号・消防特34号の通知により消防法における危険物には該当しない
<b>16. その他の情報</b>	
引用文献	: 溶剤ポケットブック(有機合成化学協会) : 化学防災指針(日本化学会) : 産業中毒便覧(医歯薬出版) : GHS分類結果データベース NITE(独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP : GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センターHP
記載内容の問い合わせ先	: 昭和エーテル株式会社 TEL: 046-285-1144 FAX: 046-285-1097
記載内容の取扱い	本SDSは、JIS Z 7253:2012に準拠しております。 記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。 また、注意事項は通常の取扱いを対象としたものです。 特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用ください。